

感染症情報 8月29日～9月4日

府下小児科201医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	806例(堺市 37例)
②おたふくかぜ	319例(堺市 23例)
③溶連菌感染症	260例(堺市 11例)
④RSウイルス感染症	190例(堺市 7例)
⑤ヘルパンギーナ	142例(堺市 15例)

が報告された。

感染症報告数は前週より4.9%増の2,095件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、おたふくかぜ、溶連菌感染症、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナの順であった。おたふくかぜは府下では前週比11%減であるが、堺市では前週17例から23例に増加していた(35%増)。溶連菌感染症は府下で9%増、堺市で15%減であった。RSウイルス感染症が府下で70%増と大幅に増えており(堺市では3→7例)、流行が懸念される。ヘルパンギーナは前週と大差なしであった。

関西空港内事業所における麻疹の集団感染の状況:堺市医師会からの報道発表資料によれば、9月7日に新たに一人陽性が判明して累計33名となったが、うち29名は回復したとある。終息するかはまだ不透明であり、定期接種の対象の子はMRワクチンの接種を至急していただきたい。

風疹の報告が1例あった。